

「ライオンズの誓い」について

「われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、
平和と自由を守り、社会奉仕に精進する。」

入会式時に新会員が宣言する「ライオンズの誓い」は、ライオンズクラブのグッド・スタンディング会員である限り反復すべきものである。ライオンズの先人達の業績を振り返り「ライオンズの誓い」の今日に至るまでの経緯を記載いたします。

- 1925年・第9回オハイオ世界大会における、ヘレン・ケラー女史の「ライオンズよ、闇を開く十字軍の騎士たれ」という講演の中に「寛容の精神」という言葉が見出せる。
- 1929年・第13回ケンタッキー世界大会で、国際協会は「会則の目的」に「世界各国の間に、寛容の精神をつちかい発展させること」の1項を加える決議をした。
- 1959年・その後日本において「ライオンズとは何か」ということを一般社会の人々に直裁的に理解できるものが必要であるとゆう声が広まり、多くのライオンズクラブから提唱され、この提案が取り上げられ302E地区が中心に原案の検討が行われた。
- 1960年・第6回302-E地区年次大会（新潟）で、「国際協会の目的」の1項を取り入れた「ライオンズの誓い」が採択された。
国際協会の理念に基づいて考えられたものであって国際協会の基本理念にかなっていると考えられる。当時日本は302-E・Wの2地区であった。「われわれは知性を高め、友愛と寛容の精神を養い、
平和と自由を守り、社会奉仕に精進する」
- 1968年・国際理事会は、ライオンズクラブの世界的発展と、国際連合を強力に支援する体制を整える為に、「国際協会の目的」第1項に掲げていた「寛容の精神」を「相互理解の精神」に変更し
- 1969年・第52回世界大会（東京）で「国際協会の目的」を変更採択した。
国際協会の目的；改正前「国際関係の諸問題を研究し、世界各国の間に寛容の精神をつちかい発展させる」
（必携初版では、発展させること となっている）
国際協会の目的；改正後「世界の人々の相互理解の精神をつちかい発展させる」
- 1980年・335複合地区では第26回複合地区大会で、「寛容の精神」を「相互理解の精神」に変更・改正した。
「われわれは知性を磨き、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進します」

しかしこの時、8複合連絡会議での意見の一致が見られず、335複合地区を除く330～337複合地区では従来のままの「ライオンズの誓

い」が採用され1986年まで続く。ここに必携に2つの「ライオンズの誓い」が掲載されることになる。

330～337複合地区（335複合を除く）

「われわれは知性を高め、友愛と寛容の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する。」

335複合地区

「われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進します」

1986年・330複合地区は、「寛容の精神」を「相互理解の精神」に改正。

又「知性を磨き」を「知性を高め」「精進します」は「精進する」となる。このように各複合地区でそれぞれの「ライオンズの誓い」を採用していたことは、ライオンズの組織機構上の複合地区の位置づけに問題を残した。

330複合地区

「われわれは知性を高め、相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する。」

335複合地区

「われわれは知性を高め、相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進します。」

331・332・333・334・336・337複合地区は従来通り。

1987年・ライオンズ必携では、3つの誓いが掲載されている。

下欄に(注)として「現在、上記2つの誓いを一本化が検討されており、それが実現するまでは本必携への掲載を中止するということがあったが、誓いそれ自体が忘れられてはならないので、一本化への過程として掲載する事となった」とある。

1988年・332複合地区・337複合地区が「寛容の精神」を「相互理解の精神」に変更

1989年・331複合地区

1992年・333複合地区・336複合地区も同調し

1993年・334複合地区が同調して、日本全複合地区で文言の調整が行われ現在の「ライオンズの誓い」に統一・採用され現在の「誓い」となる。

協会のビジョン声明文

「地域社会と人道奉仕におけるグローバルリーダーを目指す」

協会の使命声明文

「ライオンズクラブを通じて、ボランティアに社会奉仕の手段を与え、人道的ニーズを満たし、平和と国際理解を育む」